

棚倉の遺跡

1

高渡遺跡 たかはたいせき (八槻字高渡) やつき たかはた

久慈川の支流である宮川沿岸に位置する、縄文時代中期～後期（約5000～3000年前）にかけての集落跡です。東白川郡内の遺跡の中でも1、2を争うほどの多量の遺物が出土しており、縄文土器や石器、特に信仰遺物である土偶などが発見されています。



2

崖ノ上遺跡 がけのうえいせき (棚倉字崖ノ上) がけのうえ



久慈川や町が眺められる河岸段丘に位置し、周囲はたなぐら霊園となっています。過去の発掘調査では、主に縄文時代後期～晩期（約4000～2400年前）の土器や石器などが出土していますが、古くから弥生時代の遺跡として有名です。

明治21年（1888）、元棚倉藩知事の阿部正功（別項参照）が中心となって行われた発掘調査では、弥生時代中期（約2100～1900年前）の壺形土器数点が出土しました。これらの土器は再葬墓と呼ばれる、遺体を土に埋めたり、風化させて骨のみにしてから土器に入れて埋葬したりする墓に用いられたものと考えられています。のちに「棚倉式土器」と命名され、東北における弥生時代土器研究において重要な資料となっています。



3

塚原古墳群 つかはらこふんぐん (塚原字強清水)



久慈川を望む台地上にある、古墳時代後期（6世紀頃）の古墳群です。かつて10基を超える古墳が存在していましたが、現在は1基だけが残っています。この古墳は直径20m、高さ約2mの円墳で、かつては墳丘全体が石によって覆われていたと考えられています。現在は、所々に落ちているこぶし大の石によって当時の名残が見て取れます。

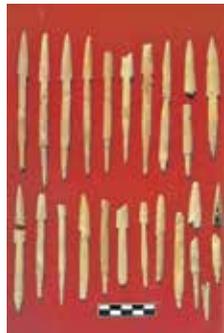
出土遺物は、直刀（刀身に反りが無い刀）や馬具（馬に乗るために使う道具）、石製模造品などが発見されています。

4

胡麻沢古墳 ごまさわこふん (祝部内字胡麻沢)

白河市との境に近い山林内にある、古墳時代後期（6世紀頃）の円墳です。古墳の盛土は大半が削平されていましたが、内部から板状に加工した石を組み合わせた箱式石棺が2基発見され、棺内から人骨4体や副葬品である直刀1口や鉄鏃（鉄製のやじり）10本、骨鏃（鹿骨製のやじり）25本が出土しました。人骨は鑑定によると、40歳～55歳の男性2人と女性2人とされています。

この古墳で特に注目されるのは骨鏃の副葬です。古墳における鏃の副葬は鉄鏃が一般的で、骨鏃が出土した例は福島県内と隣の茨城県と栃木県にあるのみで全国的に少ない事例です。実際に矢に装着して利用したのか、あるいは非実用品として儀式などに使用したのか、今後の研究が待たれます。



5

堤古墳群 つつみこふんぐん (堤字羽黒東)

堤地区の鎮守である羽黒神社の北側の山林には、こんもりと緩やかな墳丘を持った円墳11基ほどが点在しています。最大のものは直径20m前後、小さいものは約5mほどです。

造られたのは古墳時代後期（6世紀頃）で、小規模な円墳がいくつもまとまって群を構成するという、この時期の特徴がみられます。発掘調査がされていないため、実体はいまだに謎に包まれた古墳群です。



6

えきろ うまや 駅路と駅家

平安時代の初め、東白川地方には^{えきろ かんどう}駅路（官道）と呼ばれる、大規模な直線道路が通っていました。

奈良時代、都の中央政府は支配のため、地方に国府や郡家といった役所（今でいう県庁や市町村の役所）を配置し、それらをつなぐための道路である駅路を日本列島に張り巡らせました。

駅路は、^{えきでんせい}駅伝制という交通・通信制度という機能を持ちました。都、あるいは地方で緊急の連絡や非常事態が起こった際に、素早く情報を伝達するという役割があったのです。駅路の途上には、30里（約16km）毎に駅家と呼ばれる施設が置かれ、そこに常備された馬を役人が乗り継ぐことで、情報を伝えていくというシステムです。

さて、東白川地方を通過した道は^{とうかいどう}東海道と^{とうざんどう}東山道を結ぶ連絡路で、都から太平洋に沿うように進み、^{むつのかに}陸奥国までを結んでいました。この道はもとも、いわきや相馬といった浜通りを通過していましたが、平安時代の歴史書『日本後紀』によると、^{こうにん}弘仁2年（811）に内陸のルートへと変更があったことが記されています。また同じ文中に、「^{ながあり}長有」と「^{たかの}高野」の駅家を新設したともありますが、それぞれの駅家の比定地は諸説あり、具体的な場所は特定されていません。

棚倉町で駅路に関連すると考えられる遺跡として、^{まつなみだいらいせき}下山本地区の松並平遺跡（別項参照）が挙げられます。古墳時代～平安時代の集落遺跡で、特に平安時代に入ると住居跡の数が飛躍的に増加することは、駅路や駅家の新設がきっかけとなっていると思われます。道路を管理する、あるいは駅家の馬を世話していた人びとが住んでいたのかもしれませんが。



7

松並平遺跡 まつなみだいらいせき (下山本字松並平 しもやまもと まつなみだいら)



久慈川の西岸の台地上に広がる古墳時代～平安時代の集落跡で、塚原古墳群に隣接するような位置関係にあります。また、縄文時代中期の遺物も数多く出土しており、古来より住みやすい立地として認識されていたようです。

国道118号バイパスの建設に伴う発掘調査の結果、たてあなじゅうきょあと 竪穴住居跡49軒、ほったてばしらたてものあと 掘立柱建物跡14軒などが発見され、はじき すえき 土師器や須恵器、多数の鉄製品などが出土しています。

また、当遺跡は平安時代に規模が拡大することや、当時の役人層が身に付けていたとされる帯金具が出土していることなど、近隣を通過したと考えられる駅路と何らかの関係があったとされています。

8

流廃寺跡 ながれはいじあと (流字東山・国史跡 ながれ、ひがしやま)

流廃寺跡は、平安時代（9世紀後半～10世紀前半）に建立された寺院跡です。流地区の緩やかな丘陵上に位置し、大小多くの平場にお堂を建てています。

これまで棚倉町教育委員会では継続的な発掘調査を行い、多数の礎石建物跡を確認、かわら 瓦や土師器・すえき 須恵器、鉄製品といった数々の遺物を確認しました。特に、全国でも例のない金銀象嵌鉄剣の発見は、県内外で大きく報道され注目されました。

調査の成果から、流廃寺跡の建物配置（伽藍 がらん）遺構は残存状況が非常に良く、平安時代における仏教を考える上で全国的に貴重な遺跡であること、また東北地方に仏教が広がっていく様子を知るうえで重要な遺跡であることが明らかになりました。



ながれはいじあとしゅつどきんぎんぞうがんでっけん

流廃寺跡出土金銀象嵌鉄剣（県指定重要文化財）



流廃寺跡から出土した、全長約43cmの平安時代の鉄製の剣です。刀身には金や銀を埋め込む象嵌技法によって、炎状の文様と、文字によって仏を表す梵字を交互に配しています。

剣の梵字は「胎蔵界五仏」という、密教における重要な仏を表しています。大きさや薄さから実用品ではなく、不動明王像が手に持っていたものが、あるいは仏教の儀式に使用されていたのではないかと推測されます。

9

かのごやきかまあと

鹿子焼窯跡（棚倉字南町）



城下町の台地の南端、八坂神社境内周辺には、かつてやきものを生産した窯があり、棚倉焼もしくは鹿子焼と呼ばれました。

棚倉における焼き物生産の歴史は殊の外古く、すでに9代棚倉城主小笠原長昌の時代（約200年前）には行われていたようです。しかし、城主の国替え

が多いことや、材料となる良質な土が採れないことにより、棚倉ではなかなか産業として根付くことができませんでした。

明治40年（1907）に、町民有志による「棚倉陶磁器製作所」が設立され生産が本格化し、その質の良さは大正2年（1913）の勤業博覧会にて賞を受賞するほどの評価を得ました。しかし交通網の発達による、瀬戸焼といった安い陶磁器が全国を席卷すると次第に販路が縮小し製作所も解散、その後も細々と続けられた窯も昭和15年（1940）に歴史に幕を下ろしました。

棚倉焼は主に花瓶や茶碗、湯呑や皿といった日常雑器の生産が中心でしたが、鹿子焼は透き通るような美しい白色の陶磁器で、底に「鹿子焼」の判が押されているのが特徴です。現在まで伝えられている品は極めて少なく、まさしく町のお宝と言えるでしょう。



一里塚とは、江戸時代に街道の距離の目印として、1里（約4km）毎に設置された塚のことです。町内で現存する一里塚は八槻、逆川、山際各地区にあり、下町には跡地として標柱が建てられています。

緑の文化財

緑の文化財とは、福島県内の神社やお寺などで長年人びとに大切に守られてきた貴重な樹木を保護する目的で、昭和58年（1983）に選定されたものです。棚倉町では8本の樹木が指定されています。

名 称	所在地	高さ	樹齡	備 考
<small>あきばじんじゅ</small> 秋葉神社のケヤキ	棚倉字北町	28m	250年	
<small>あたごじんじゅ</small> 愛宕神社のヤマナシ	瀬ヶ野字仲ノ町	20m	200年	
<small>きぼう</small> 希望のサクラ	逆川字山梨子山	13m	120年	町指定天然記念物
<small>たなぐらじょうあと おお</small> 棚倉城跡の大ケヤキ	棚倉字城跡	32m	600年	県指定天然記念物
<small>つつみ</small> 堤のしたれザクラ	堤字羽黒東	24m	150年	
<small>はなぞの</small> 花園のコウヤマキ	花園字大明神	21m	700年	町指定天然記念物
<small>ふたはしらじんじゅ</small> 二柱神社のスギ	寺山字守崎	37m	1000年	県指定天然記念物
<small>れんげじ おお</small> 蓮家寺の大ケヤキ	棚倉字新町	32m	350年	

※いずれも昭和58年（1983）時点